

院内早期警戒スコアの現状解析

京都第一赤十字病院 集中治療部では、入院された成人の患者さんを対象に血圧や脈拍等のバイタルサインから得られる重症度スコア（早期警戒スコア）に関する臨床研究を、京都府立医科大学 集中治療部と協力して実施しております。

実施にあたり当病院の倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

入院されている患者さんが急変するとき、その前には何らかのバイタルサインの変動があるということが研究で示されています。そして、それを適切に捉え早期介入することで急変を未然に防ぐ、または重症化する前に治療介入を行うことができると考えられます。

早期警戒スコアは、日々の血圧や脈拍等バイタルサインを元に患者さんの重症度をスコアリングし評価するものです。

本研究では、この早期警戒スコアによる予測がどの程度正確なのかを検証する予定です。

研究の方法

対象となる方について

2022年1月1日から2022年12月31日までの間に、京都第一赤十字病院に入院された、15歳以上の患者さんを対象としています。

研究期間：倫理審査委員会承認後から2024年12月31日

方法

対象となる患者様の診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。病棟での急変や手中治療室緊急入室などと取得した情報の関連性を分析し、早期警戒スコアの導入の効果や課題について調べます。

研究に用いる試料・情報について

情報：

患者さんの入院の状況に関するもの、年齢、性別、診療科、病棟、受けられた手術など
患者さんのバイタルサイン、脈拍、血圧、体温、動脈血酸素飽和度など

個人情報の取り扱いについて

患者さんのカルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都第一赤十字病院 集中治療部 山崎正記）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

試料・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報は原則としてこの研究のために使用し、研究終了報告日から5年又は研究結果の最終公表日から3年又は論文等の発表から10年のいずれか遅い日まで、研究責任者 山崎 正記の下で保存させていただいた後、研究用の番号等を削除し、廃棄します。

保存した情報を用いて将来新たな研究を行う際の貴重な試料や情報として、前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な試料・情報として利用する場合があります。新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

当院研究責任者

京都第一赤十字病院 集中治療部 部長 山崎 正記

研究代表（統括）者

京都第一赤十字病院 集中治療部 部長 山崎 正記

研究者

京都第一赤十字病院 麻酔科 部長 阪口 雅洋

京都第一赤十字病院 麻酔科 医長 三原 聡仁

京都第一赤十字病院 麻酔科 医師 河合 直史

京都第一赤十字病院 麻酔科 医師 内匠 啓

統括研究責任者

京都府立医科大学附属病院 集中治療部 部長 小尾口 邦彦

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2023年12月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都第一赤十字病院 集中治療部

部長・山崎 正記

電話：075-561-1121（代表）（平日9時～17時）